CORIAN® NEWS

Special Edition

コーリアン®ニュース 2023 特集号 No.119

Special Edition

119

Photo: Yoshihito Imaeda

きらめく夜景と溶け合い、人々を魅惑する都心のテラスラウンジを彩る“月光”のテーブル

ベンジャミンステーキハウス
東京ガーデンテラス紀尾井町店 内装新設工事

幻想的な光のデザイン

日が暮れて空がすみれ色に染まる頃、都心の超高層ビル群を見渡すテラスラウンジを訪れると、ビューサイドに置かれたいくつものテーブルが月の光を宿したかのようなやわらかな輝きを放っていた。夜の帳が下りるにつれて、光のテーブルがくっきりと美しく浮かび上がり、きらめく夜景と調和して約100坪の広いテラスが幻想的な雰囲気に包まれていく。ここは2022年4月に開業した「ベンジャミンステーキハウス 東京ガーデンテラス紀尾井町店」。ニューヨーク・マンハッタン発のステーキ専門店だ。

スタンドテーブルやバーカウンターの光る天板は、コーリアン®の透光性を生かしたもの。流れ模様が印象的なコーリアン®「ゴールデンオニックス」の天板を内側からLED照明で照らしている。東京最大級の商業テラス空間を優美に彩る“光のデザイン”だ。店内意匠を担当した、設計事務所ピコ・イノベートのデザイナー、板橋大介氏は次のように語る。

「素晴らしいロケーションを生かして、お客様に海外のルーフトップバーのような雰囲気を感じてもらえる空間にしようと思いました。光の透過によって天板に奥行きのある豊かな表情が生まれ、“ゴールデンオニックス”の模様の陰影が美しく引き立ちます」。テラスラウンジのデザインで意識したのは、高級感を保ちつつも「きらびやか」であることだという板橋氏。

テーブル素材にコーリアン®が選ばれた理由は、定尺762×3658㎜の材をシームレスジョイントすることで、より大きな面を作り出せる加工性の高さにあった。「厚さが12㎜あるので強度の面でも安心でした。思った通り、継ぎ目も全く気になりません」と笑顔を見せる。

コーリアン®は飲食店に適した特性を持つ素材であることも気に入っているという。「ワインなどをこぼしても染み込みにくく、一般的なお手入れできれいに使い続けられることからスタッフの方にも好評です。また、材質が石材やガラスよりも柔らかいので、グラスがぶつかっても欠けることが少ない点も飲食店にとってうれしいこと。テーブルに手を触れたり、肘をついたときも、石材と違ってどこか温かみのある触感なので、くつろぎ感が増すのではないでしょうか」（板橋氏）。

光り揺らめくラグジュアリーな壁

コーリアン®はテラスだけでなく、屋内のインテリアにも効果的に使われ、統一感ある演出がなされている。たとえばエントランスに配したレセプションカウンターの腰壁はコーリアン®に乱切り調の目地を入れたもの。間接照明の光のもと、目地の黒いラインがアクセントとなってラグジュアリーなバーの雰囲気に美しく溶け込んでいる。ダイニングホールの装飾壁も見逃せない。大きな壁一面にコーリアン®の「ゴールデンオニックス」を張ったもので、左右のパネルには裏面からNCルーターで鎖状の模様が描かれている。背面からの間接照明を受けて、彫刻風の独特なデザインが美しく浮き上がる仕掛けだ。

レストランの発祥となった米ニューヨークの店舗は、木製の内装と暖炉を生かした伝統的なステーキハウスの意匠だという。「コーリアン®という素材を使うことで、『ニューヨーク店のテイストを生かしつつ、新たなセンスを感じる洗練された店舗を創り出してほしい』というオーダーに応えることができました」と板橋氏は語る。

スタンドテーブルで向かい合い、ワイングラスを傾けるカップルの幸せそうな姿、バーカウンターでくつろぐ人々の満ち足りた笑顔。コーリアン®の“月灯り”が創り出した非日常の空間が、テラスラウンジで美食を味わう夜を心ときめく特別な時間にしていた。

（文：菱沼晶）

使用色

ゴールデンオニックス　ホワイトオニックス

ウィッチヘーゼルⅡ

■所在地／東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町4F
■設計・監理／株式会社ピコ・イノベート
■コーリアン®加工／株式会社インテック

旅の活力を養う食の場で やさしい存在感を放つ

ホテル阪急レスパイア大阪　グリリアート クオッカ

国内外からの観光客が思い思いに食事を楽しむオールデイダイニング。ホテル阪急レスパイア大阪のイタリアンダイニング「グリリアート クオッカ」は、1030室に滞在する宿泊客の朝食会場としても利用され、222席を有する店内は天井も高く開放的。その広い空間で堂々たる存在感を放つ3つのカウンターはコーリアン®「ニュートラルコンクリート」で製作されている。レストランの入口でお客様を出迎えるメインカウンター、薪窯のあるオープンキッチンとつながるビュッフェカウンター、そして食器類の収納もできるもう一つのビュッフェカウンターは、いずれも角に丸みのあるデザインでやさしい印象ながら、シームレス加工で生み出されたソリッド感とその大きさが印象的だ。

「塊でありながら丸みがあるという、3D CADで自由に描いたようなデザインをそのまま具現化できたのは、加工性の高いコーリアン®だからですね。ジョイントが目立たないという最大の利点に加えて、加工の手間が少なくすむ点でも実用性の高い素材だと思います」と話してくださったのは、レストランを含むホテル全体のデザインを手がけたイリアのデザイナー、川﨑かさね氏。

「ビュッフェカウンターは、常にお客様の目につく場所にあるので、その仕上がりは空間全体のクオリティにも影響します。表現したいデザインや、必要な機能を埋め込むためのいろいろな加工に耐えられることが素材選びの一つの基準になります。コーリアン®は無垢材なので小口の処理が必要ないというのは助かりますね。もちろん汚れに強い素材ということが大前提です」。

また、阪急阪神グループの新ブランドホテルであることから、素材選びには別の視点でもこだわりがあったという。

「阪急さんといえば、私鉄による多角経営のビジネスモデルを生み出した"先駆者"というイメージがあります。そのイメージにふさわしく、コンテンポラリーな発信をするという要素をデザインにも取り入れたいと考えました」。

そこで、インテリアの素材には新しいものを積極的に取り入れたという。たとえばレストラン内の床材には、機能とデザイン性を併せ持つ塩ビ系の糸で作られた織物床タイルを採用している。

「床材は天然素材ではないけれど、織物という点では本物であると言えます。表面だけ何か別の素材を真似たものとは違う、存在感の強さがあります。こうした新しい素材との親和性を考えたときに、無垢材の本物感を持ち合わせる、人工大理石コーリアン®との相性がとてもよいと思いました」。

今回使用された「ニュートラルコンクリート」は、温かみのあるグレー系のカラー。モダンすぎず、ホスピタリティを感じる色合いがホテルという場にふさわしいと選ばれた。

「コンクリートという名前がついていますが、なんとも言えないやわらかい質感と色ですね。マットでやさしい印象ですが、コーリアン®自体の存在感があるので、遠目に見ても、ここにカウンターがあることをすぐに認識していただけると思います」と川﨑氏。多彩な色柄だけでなく、コーリアン®が持つ唯一無二の存在感そのものが、デザイン表現の具現化に貢献し得ることを教えていただいた事例だ。

（文・永山八重）

使用色
ニュートラルコンクリート

（2023年3月カタログ掲載終了色）

- 所在地／大阪市北区大深町1-1
- デザイン／株式会社イリア
- 施工／株式会社J.フロント建装
- コーリアン®加工／株式会社フューチャーストーン

瀬戸内の風を感じて、極上のひとときを

オリビアン小豆島　夕陽ヶ丘ホテル
リブランド「エグゼクティブフロア」改修

瀬戸内海に浮かぶ小豆島のリゾート施設「オリビアン小豆島 夕陽ヶ丘ホテル」は、2022年5月に「エグゼクティブフロア」をリニューアルオープンした。同フロアには、約100㎡の「テラススイート ビューバス」と「テラススイート ビューバス コネクト」の2タイプの部屋が各1部屋ずつ用意されている。

テラススイート ビューバスタイプの部屋は、明るい木材を基調とした室内で、テレビ下まで伸びる造り付けの長いカウンターテーブルが印象的だ。このカウンターは、宿泊客が簡単な調理を行えるように、小型シンクを備えたミニキッチン機能も合わせ持つ。最高で天井高4mに達する勾配天井とも相まって、広々とした贅沢な空間だ。

この空間デザインのアクセントになっているのが、長いカウンターを設けた壁の意匠だ。木質仕上げ面材を壁の躯体から浮かせて縦張りにし、薄型テレビを収納した。また、壁には小窓のような飾り棚もあり、地元の名産品が目を楽しませてくれる。

ホテル所有者で運営も担うカサイホールディングスにおいて、デザイン検討に加わったディベロップメント事業部の田上ゆか氏は、次のように話す。

「広い部屋にゆったりとした長いカウンターがあると、ホテル空間として面白いですよね。明るい色味で木目がはっきりした木材で壁面を仕上げましたので、カウンター全体を引き締める意味で、天板には黒っぽいカラーのコーリアン®を選びました。いわゆる『和モダン』のテイストには寄りすぎないように、色のコントラストを淡く抑えられた点がとても良かったと思っています」

設計・施工を担当した清水建設の山田邦夫 商業・宿泊施設設計部設計長は、「テレビ下のカウンターは、設計当初からコーリアン®をスペックインしていました。石でもなく、木でもない、コンクリートとも異なる風合いが面白い建材だと感じます」と続ける。

カウンターに使用されたコーリアン®の色柄は木との相性も良く、あたたかみを感じられる「ウェザードアグリゲート」が選ばれた。

こうした一連のデザインは、笠井寛・同社社長のブランドコンセプトに基づくものだ。笠井社長は小豆島で生まれ育ち、21年にこのホテルの運営を引継いで、現在は自らホテル総支配人を務めている。

笠井社長は、「東京・港区と瀬戸内・小豆島、素晴らしい魅力とワクワクするような可能性を持ったこの二つの街の懸け橋づくりこそ、私のライフワーク。ホテルが位置する小豆島北部は良い意味で何もなく、自然の美しさに満ちている。瀬戸内に沈む夕日を望めるこのホテルで、お客さまにゆったり過ごしていただきたい。デザインにもそんな想いを込めました」と語る。

同フロアにある2タイプの客室の、テラス部分に元々あった窓サッシを撤去、外壁をセットバックして、潮風を感じながら夕日が眺められる半屋外の優美で開放的なテラススペースとなった。また、眺望を最優先するため、美しい景色を遮らないように外部手すりの素材をガラスへ変更した。

今回の改修にあたって、ロビーには薪をくべられる本格的な暖炉を導入し、レストランもリニューアルされた。ホテルの敷地面積は全体で20万㎡と広大であり、同社は今後も知恵と時間をかけて小豆島の豊かな自然と人との融合をより体感できるリゾート施設を目指している。（Y・DMC MC）

洗面ボウルは、コーリアン®カウンターの色柄と相性の良いグレーを用いることで雰囲気が統一されている。

Photo: ディヴスタイルデザイン　森井裕也

使用色
ウェザードアグリゲート

■所在地／香川県小豆郡土庄町屋形崎甲63-1
■設計・施工／清水建設株式会社
■コーリアン®加工／株式会社栄信

Photo: Yoshihito Imaeda

客室の世界観になじむ洗面台

ザ ブラッサム 熊本
THE BLOSSOM KUMAMOTO

2021年4月、JR九州熊本駅直結の駅ビル最上層（9～12F）にホテル「THE BLOSSOM KUMAMOTO（ザ ブラッサム 熊本）」がオープンした。

「THE BLOSSOM」は、JR九州ホテルズの宿泊主体型ホテルにおける最上位ブランドで、日比谷、博多に次ぐ3番目の開業となる。

熊本の自然豊かな景色が堪能できるロビーをはじめ、館内は熊本の自然や文化、伝統を感じる空間デザインのほか、香りや音など五感に訴える演出にもこだわって、「火の国」「水の都」熊本の魅力を体感できるしかけが散りばめられている。

平均27㎡以上の203室ある客室は、どれも熊本の自然をモチーフにデザインされている。熊本の街並みを眺めながらゆったりと寛ぐことができるガラス張りのバスルームを備えたプレミアムルームをはじめ、小上がり空間を備えたデラックスツイン「和（NAGOMI）」、離れ形式のスイートルーム「離れ～THE SUITE」など、全10タイプ。

水まわりは、トイレ・バスルーム・洗面コーナーがすべての部屋でセパレートに配置され、滞在中の身支度もゆったりと寛げるように配慮されている。館内には自然を身近に感じながらゆっくりと手足を伸ばせる湯どころ（大浴場）も用意されているため、スタンダード、スーペリアタイプには浴槽を配置していないが、独立型のシャワールームは、一日の終わり、あるいは始まりに、心身をリフレッシュするには十分な広さだ。

洗面化粧台はハーフベッセルタイプのデザイン。そのカウンタートップにはコーリアン®のデュポン™プライベートコレクション「ラバロックⅡ」が採用されている。グレーの地にアンバーとゴールドの柄を流し、大小のクランチを配した深みのある模様は、キャビネット部分の木目とも相性がよく、モダンでありながら、どこか日本らしさを感じさせる組み合わせ。また、どれも自然界を思わせる色柄の床材や壁材ともよく馴染み、客室に表現されている世界観を、水回りまで揺るぎなく反映させている。

インテリアとの親和性の高い、とりわけデザイン性に富む色柄だからこそ、洗面台を客室内のどの位置に配置しても違和感がなく、限られた空間での設計の自由度を高める一助になったのではないだろうか。

（文・永山八重）

使用色
ラバロックⅡ

■所在地／熊本県熊本市西区春日3-15-26
■運営／ JR九州ホテルズ株式会社
■コーリアン®加工／有限会社アミカ美装

Photo: Yoshihito Imaeda

“お菓子の発信基地”を引き立てる、しとやかな什器デザイン

ヨックモック東京駅一番街店

若い世代にアピールできる店舗に

ヨックモックといえば、サクサクとした軽い口当たりとやさしい口溶けのロール状の焼き菓子「シガール」でお馴染みだろう。半世紀を超える歴史を持つ洋菓子製造・販売の老舗企業で、全国の百貨店や商業施設に店舗展開している。そのなかでもひときわ賑わいを見せる東京駅一番街店が、2022年9月、少し場所を移して装いも新たにリニューアルオープンした。

東京駅の八重洲地下中央口改札を出て左手に進むと、白を基調とした内装に深みのあるヨックモックブルーのアクセントパネルが鮮やかに映えるエレガントな店舗に出会う。巨大シガールのポールや店舗限定商品のクッキーシューを積み上げたタワーなどユーモアのあるディスプレイも楽しく、行き交う人々の目を惹きつける。この店舗の什器にコーリアン®が使われている。

「ヨックモックのお菓子はお歳暮やお中元といった贈答品としての人気も高く、あらゆる世代の方にご愛顧いただいていますが、今回は往来の多い東京駅という立地を生かして、若いお客様によりアピールできる店舗づくりにチャレンジしました。『笑顔をつなぐお菓子の発信基地”Sweets Station”』をコンセプトに、お客様が自由に回遊し、商品を手にとってレジまでお持ちいただける売り場にしています」と同社ブランディング部の福地亮介氏は語る。

売り場に柔らかで美しい一体感を

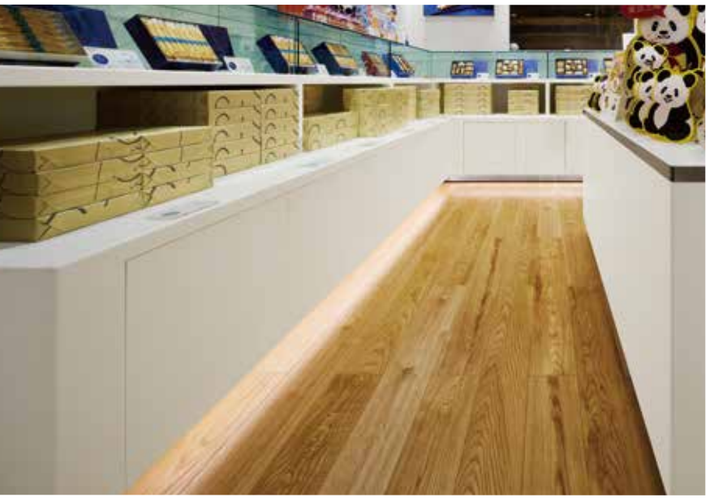
コーリアン®のカラーは白の中でも焼き菓子の生地の色に近い「ライスペーパー」が選ばれた。設計デザインを担当した株式会社京屋の奈良浩二氏は、コーリアン®の上品で奥ゆかしい素材感を「しとやかさ」と表現する。

「ヨックモックの高級感を保ちつつ、若いお客様も立ち寄りたくなるような遊び心のある店舗を創ろうと考えたとき、什器に求めたのがしとやかな質感でした。コーリアン®には木材とはまた違った上質のしっとり感があって優雅な雰囲気が醸し出せますし、お客様が触れたときも心地よく感じていただけます。什器のエッジに丸みを持たせたかったので、天然石では難しい角アール加工ができるのも魅力でした。思い通りのアールが出せて、接着ラインも目立たないので、売り場に柔らかで美しい一体感が生まれました」と奈良氏。また、機能面においてはすべての什器にストックスペースを設けているので、陳列商品の補充もスムーズだ。

季節商品を並べたワゴン型の什器にも目を見張った。前面に透かし彫りで描かれた”ｙｏｋｕｍｏｋｕ”のサインのお洒落なこと。「ルーターではきれいに出せない口ゴの繊細なラインやシャープなピン角をウォータージェットでくり抜いて実現しました。こうした工芸品のような加工ができるのもコーリアン®の良さですね」と奈良氏は語る。

間接照明の優美な光に彩られた店内にはシガールをモチーフにしたペンダントライトが吊るされ、よく見ると壁紙にもシガール模様が描かれているなど、ヨックモックファンの心をつかむ楽しい仕掛けが随所に施されていた。「若いお客様からの反響も上々で、巨大シガールやクッキーシューのタワーと一緒に記念写真を撮っていく方もいらっしゃいます」と福地氏は顔をほころばせる。早くも東京駅一番街で話題のスポットとなっているようだ。

（文・菱沼昌）



ガラスのディスプレイケースの下に商品の陳列棚を設けたL字型の壁面什器。底部に間接照明を組み込んで美しい浮遊感を演出している。

入り口近くに置かれた季節商品を陳列するコーリアン®のワゴン。ウォータージェット加工で実現した透かし彫りの繊細なサインが印象的だ。

使用色
ライスペーパー

■所在地／東京都千代田区丸の内1-9-1 東京駅一番街 地下1階
■デザイン・内装施工／株式会社京屋
■コーリアン®加工／株式会社シーアール

Photo: Yoshihito Imaeda

人々が自然に集う「街を照らすベーカリー」

TERRAS BAKERY/COFFEE

多彩なパンを引き立てる陳列カウンター

2022年の秋、兵庫県尼崎市の阪神本線「出屋敷」駅前にあるビルの1階に、『TERRAS BAKERY/COFFEE』が誕生した。オーナーは、同ビルの上階でサービス付き高齢者向け高級賃貸住宅とデイサービス事業を展開する社会福祉法人あかね副理事長松本優賀氏だ。『TERRAS BAKERY』のコンセプトは「街を照らすベーカリー」。そこには「おいしいパンやコーヒーを通じてあたたかな繋がりを生み、街のしあわせ時間を増やしたい」という松本氏の思いが込められている。

通りに面した2面のワイドなガラス窓から光が明るく差し込む開放的な店内は、モルタル調のタイル床と木の温もりを感じるフローリングが調和し、大地を思わせる石模様の壁や艶めく照明と相まって、素朴な雰囲気の中にグレード感と気品が漂う。店舗デザインを手掛けたプランニングワーク株式会社の松井友樹氏はこう語る。「目指したのはお客様の気分が上がるようなパン屋さんです。出屋敷の街のランクを一段階上げるような存在にしたい、というオーナーの要望を受けて、高級・上品・モダンの3つをキーワードにデザインしました」。

コーリアン®で叶えた独創的なデザイン

店内に入ると、入口すぐのところから奥へと続くダイナミックな陳列カウンターに惹きつけられる。2段に重なる大きな円型カウンターが変形し、流れるような曲線ラインとなって延びる印象的なデザインだ。底部から放たれる照明の効果で、カウンターはまるで宙に浮いているかのよう。そこに職人の手で焼き上げられた多種多様なパンが、手作りのアート作品のように美しく並べられている。

「間口が狭くて奥行きのあるスペースを生かすため、あえて窓側ではなく、店内を縦に貫くように前から奥へとつながる形で陳列カウンターを配置しました。大きな円形カウンターと、そこに並べられた魅惑的なパンがアイポイントになってお客様の目を引きつけ、そこから切れ目なく続く陳列でさらに好奇心をそそり、自然にレジ方向へと誘引する動線になっています」と松井氏。全長9m以上もあるこのカウンターはコーリアン®「ニュートラルアグリゲート」で製作されている。

「無機質なおしゃれ感を出したかったのでモルタルで仕上げることも考えたのですが、モルタルだと無骨になりすぎて『TERRAS BAKERY』のイメージに合いません。その点、コーリアン®なら品の良い高級感がありますし、ベーカリーに大切な清潔感も醸し出せます。なによりこれほど長さのあるアール形状のカウンターを、継ぎ目を目立たせず、なめらかに加工するとなると、それを実現できる素材はコーリアン®をおいて他にはありませんでした」と松井氏。流れ模様が特徴的な「ニュートラルアグリゲート」を採用することで、無機質でありながら上品な空間の演出に成功している。

カウンターは8分割で現場へ搬入し、シームレスジョイントで仕上げたという。「模様があるので多少は継ぎ目が出てしまうと思っていましたが、想像以上にきれいな仕上がりで、接着面も全く気になりません。こんなに大きなサイズにもかかわらず、自由に描いたデザイン通りに具現化できたことに満足しています」と松井氏は笑顔を見せる。

こだわりのお惣菜パンを見比べて楽しそうに選ぶ人、イートインでコーヒーを飲みながら友人とのおしゃべりに花を咲かせる人、そして生き生きと働くスタッフの幸せそうな笑顔…。『TERRAS BAKERY』は、早くも街の人々の暮らしを「照らす」存在になっているようだ。

（文：菱沼昌）

使用色
ニュートラルアグリゲート

■設計／プランニングワーク株式会社
■コーリアン®加工／株式会社コスモ建材工業

Photo: Yoshihito Imaeda

上質な輝きと繊細な加工で愛らしい商品を引き立てる

サブレミシェル　大丸東京店

東京の玄関口にふさわしい店舗に

ビジネスマンや旅行者、買い物客が行き交う東京駅八重洲口。日本橋方面からＪＲ八重洲北口改札に向かう通路の入口にもなっている「大丸東京店」１階の角地に、麻布十番で人気のサブレ専門店「サブレミシェル」がある。

ガラス越しにも目をひく鮮やかなブルーを基調とした店内には、世界中の美しいモチーフを象った愛らしいサブレが賑やかに並んでいる。中でも、ショートケーキのような形をした「ケーキサブレ」や、１５の国と都市を表現したパッケージ缶にその土地にちなんださまざまな形のサブレを詰めた「ヴォヤージュサブレ」が人気だ。

色とりどりの商品を陳列している壁面什器の棚板とショーケースの底板、アイランド什器のトップにはコーリアン®「リバーパール」が採用された。

「今回、コーリアン®を選んだ理由は、質感と耐久性でした」と話してくださったのは、店舗デザインを手がけたグローブスタジオの輿水司氏。「クライアントからは、東京の玄関口に直結し、数ある百貨店の中でも最も人が集まる場所にふさわしい店舗にしてほしいとのご要望がありました。そこで、お客様が商品を選び、手に取る瞬間の背景となる什器のトップには、表面的な装飾ではなく、木や石のように無垢な素材を使用したいと考えました。トップの素材選びは、商品の印象にも大きく影響するため一番大事にしたいところです」。

また、東京駅直結という場所柄、スーツケースやアタッシュケースを持って入店する人も多いため、什器の素材には特に耐久性が求められた。そこで選ばれたのが、コーリアン®だった。

幅広い可能性を秘めた唯一無二の素材

「トップは白にしましょうというお話はしていましたが、白という色は人によって捉え方が異なります。そこで、コーリアン®のカラーラインナップの中から白系をいくつかピックアップしてサンプルを用意し、実際に触って、自然光の下で確認してほしいとお願いしました。店舗のデザインについてはある程度お任せいただいていたのですが、素材選びについては、商品を置いたときの印象なども含めて、実物を見ていただくことが重要だと考えています」と輿水氏。

選ばれた「リバーパール」は上質な輝きを湛えた奥行きのある白。ブランドのコンセプトに寄り添った欧州スタイルの什器デザインともよく合っている。

小口の加工も特徴的で、アールヌーボーを思わせる柔らかな曲線は、工芸品のような仕上がりだ。

「イタリアなど、伝統的な技術が継承されているところでは、天然石でもこうした加工が多用されていますが、日本の店舗でこうした表現を叶えるには、コーリアン®の加工性の高さが欠かせません。素材のポテンシャルとしては、もっと複雑な表現でもできそうですね」。

シートの状態では無機的な印象のコーリアン®が、加工によって有機的に変わるところも魅力のひとつだと言う。

「ほかにも、独特の質感であったり、人肌に馴染む温度感、木や石のように加工を施せば職人の手肌感も残るところなど、ほかの素材では伝えることができない表現を可能にする素材です。リペアをしながら長く使うこともできますから、アンティークやヴィンテージの家具のように、作ったものを後世に残すこともできる。建材という枠に収まらず、幅広い用途に活用できるのではないでしょうか」と、コーリアン®の可能性についても語ってくださった。（文・永山八重）

厚みのある小口は、コーリアン®のシートを積層して、繊細なカットを施している。すべての角は手で触れて心地よい丸みがつけられている。「均質なソリッド材だから、カットの仕方で違う表情が生まれ、積層して削り出すこともできる。私にとって、コーリアン®という素材は上質なバターのようなイメージです」と輿水氏。

使用色
リバーパール

■所在地／東京都千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店1F
■発注者／株式会社ガトーミシェル
■デザイン監修／株式会社グローブスタジオ
■設計・施工／株式会社ウィズ

京町家に内包されるモダンな美食空間

富小路RAKU

京都御所を望む富小路通りの角にある鉄板焼き「富小路ＲＡＫＵ」。京町屋をリノベーションした建物は中と外で雰囲気がガラリと変わる。メインカウンターのある2階のインテリアはモダンなモノトーンで統一。窓の外に広がる御所の緑とのコントラストが美しい上質な空間が来店客を出迎える。

店舗の設計を担当した小西啓睦氏は、京都を拠点に建築から家具やグラフィックデザインまで幅広く手掛けるデザイナーだ。「オーナーからは既存の町屋の構造を生かすこと、それでいて、コンテンポラリーな料理に似合う空間にして欲しいというご要望がありました」。そこで小西氏が目指したのは、伝統とモダンの融和だった。

「現しにした柱や梁に使われている古木の存在感が強いので、どうしても民芸調な空間になりがちです。そこに天然石や無垢材など素材感のはっきりしたものでカウンターを作ると、空間の持つエネルギーが増幅して、重厚感や緊張感が生まれます。そうした雰囲気は、富小路ＲＡＫＵの提供したいサービスや時間とはアンマッチだと考え、古木とは対照的な雰囲気のモダンな素材を組み合わせていくことにしました」。

メインカウンターの素材として選ばれたのは、コーリアン®の「ココアプリマ」。L字型の客席カウンターからバックカウンターまで継ぎ目なくつながる大きな天板として製作されている。「カウンターをひとつの大きなテーブルに見立ててデザインしました。料理人が腕を振るう様子をライブで楽しめるのも鉄板焼きの醍醐味。それをお客様が囲むように座り、一緒に食することで、コミュニケーションや一体感が生まれるカウンターにしたいと考えました」。

カウンターの素材には、セラミックタイルやモルタル調の左官材も検討されたが、いくつかの理由からコーリアン®が抜擢された。

「これだけのサイズでも目地なく作ることができるので、食器がひっかかる心配がありません。また、ダイニング全体を同じ素材で作ることができるという施工性の高さなど、様々な条件を考えた結果、最終的にはほかの素材は考えられませんでした。さらに、工場で加工したものを搬入し、現場で組み上げるので、工期がぐっと圧縮されるなど、今回求めていた条件のすべてが整っていました。メンテナンス性もよいし、柄も豊富に選べるところもよかったですね」。

唯一の懸念材料は、「ココアプリマ」が複雑で大きな流れ模様の柄であるため、ジョイント部分で柄が途切れてしまうことだった。「実際に施工していただいたものを見ると、継ぎ目がほぼ分からず、想像以上にダイナミックな仕上りでした。これまでコーリアン®は水回りやキッチンのカウンターなどに使うことが多かったのですが、今回のような大きな面でもデザイン性の高い柄で作れることがわかったので、空間の主役になるような使い方ができますね」と小西氏。また、人工的なものであるはずなのに、木や土壁といった自然素材の中に置いても違和感を感じることがなく、それぞれの素材のエネルギーを和らげ、空間を整えるような役割も果たしていると感じたそう。「コーリアン®には他の素材にはない力を感じます。今後もぜひ使ってみたいですね」と語ってくださった。

（文・永山八重）

使用色
ココアプリマ

（2023年3月カタログ掲載終了色）

■ 所在地／〒604-8854 京都府京都市中京区桝屋町337
■ デザイン／miso 小西啓睦
■ 施工／株式会社オー・エヌ・イー　高松良介
■ コーリアン®加工／株式会社 コスモ建材工業

ボートレースの航跡と白波をモチーフとした憩いの広場

SIX WAKE ROPPONGI

Photo: @Shinichi Sato

「第六感」を刺激する環境

六本木交差点を飯倉方面へ向かって外苑東通り沿いに歩くと、ビル群の合間に突然視界が開け、波の動きを象った、高低差のある白壁と共に芝生とウッドデッキの広場が現れる。ここは2020年に完成した一般財団法人BOATRACE振興会の複合施設『SIX WAKE ROPPONGI』だ。オフィス棟とホール棟の間に憩いのスポットとして屋外広場『SIX WAKE GARDEN』が設けられ、ガラス張りの壁が湾曲するビルの外観とも呼応して、都心に自然豊かな景観を創り出している。

起伏に富んだ広場のデザインはボートレースで競う6艇が走り過ぎた後に残る航跡とダイナミックな引き波を、コーリアン®で見事に表現している。どんな発想からこの躍動感あふれるデザインが生まれたのか、ランドスケープを担当した有限会社アースケープの小野寺憂貴氏にお話を伺った。小野寺氏によると、「6」の数字には、もう一つの意味があるという。

「構想を練る前にまずはボートレースを観戦して臨場感を味わってみようと思い、ボートレース場に行って実際に賭けてみました。そのとき、人が勝負を見極めるときに頼るのは、わずかな風向きの変化や波の立ち方、選手の調子などに感覚を研ぎ澄ませることで得られる一瞬のひらめき、つまり第六感だと感じたのです。だったらそれを広場のコンセプトにして、人々の"シックスセンス"を心地よく刺激する環境を六本木に創り出そうと思いました」と語る。

優れた耐候性、心地よい手触り

ウォール素材を選ぶにあたっては、曲げ加工がしやすいだけでなく、屋外なので耐候性や耐久性の高さも必須条件となる。加えて小野寺氏がこだわったのが「白」の美しさだ。

「波のうねりが造形できて、風雨や暑さ寒さにも強く、しかも変色せずに白さをずっと保つことのできる素材となると、コーリアン®が適材でした。ただ、白といってもコーリアン®にはいろんなバリエーションがあります。今回は白波らしいキリッとした印象にしたかったので、数種類の白のサンプルを手にオフィスの庭で自然光にあてて何度も見比べ、"グレイシアホワイト"を選びました」

『SIX WAKE GARDEN』のウッドデッキを進むと奥は高い壁で囲われた居心地のよいラウンジになっており、飲み物を手にくつろいだり、ホールで開催されるイベントを観覧できるスペースとしても活用されている。このラウンジのカウンターも、彫り込みの手すりもコーリアン®で作られている。小野寺氏にその理由を尋ねると、「コーリアン®は造形の自由度もさることながら、手で触れる場所や座面に使っても気持ちいい素材だからです。やさしい感触で、どこか自然素材に近い温もりが感じられるんですよね」とのこと。確かに芝生やウッドデッキ、植栽ともしっくりと調和していて馴染んでいる。

四角いビルが林立する六本木で、有機的な曲線デザインのオープンスペースに出会うと心がほっと和む。ときに緑の中を蝶々が舞い、秋には虫の音も聞こえるという。『SIX WAKE GARDEN』は都会で暮らす人のオアシスのような存在として親しまれ続けることだろう。

（文・菱沼昌）

使用色
グレイシアホワイト

■所在地／東京都港区六本木5-16-7
BOATRACE六本木
■デザイン・設計／EARTHSCAPE INC.
■コーリアン®加工／株式会社エイベクス

水面の波紋のように 人と人とがつながる円形ベンチ

賢明学院中学高等学校 卒業記念モニュメント

2022年6月、閑静な丘から世界遺産・百舌鳥古墳群を臨む、大阪府堺市のカトリック系学校法人 賢明学院中学高等学校の50期、51期の生徒の卒業記念としてモニュメントが建てられた。波紋のような3段の円形が重なった台座が2つ並び、立木をモチーフとした金属製のパーゴラが目を引く。

このモニュメントは、学生が自然と集えるようにというリクエストを受けて、関西学院大学建築学部の八木康夫教授が設計を担当した。完成から程なく、学生たちが自然と集まるスポットとなっている。八木教授は、モニュメントについてこのように語る。

「波紋と立木をモチーフに、卒業生や生徒たちの関わりが水面の波紋のように幾重にも輪を描いて広がる様子を表現しました。パーゴラのデザインには"桃李成蹊"の言葉のように、果実をつける樹木（桃李）の下に自然と人が集まり、道ができていく様を表現しました。

完成してみると、コーリアン®をしっかり目地で埋めたことで、"むっくりとした"存在感のある仕上がりになりました。蓄熱しにくいのか、直射日光に照らされた昼間でも、手で触ると少しひんやりしていますね」。

腰掛けられる台座部分はコンクリート製で、その上からコーリアン®をタイルのように貼って仕上げている。コーリアン®を円形や四角に切り出し、コンクリートにタイルとして埋め込むデザインは画期的だ。

「台座の仕上げ材料として、屋外構造物の床に多く使われる割り石調は、円を描くデザインには向かないとわかっていました。また、焼成タイルにもちょうど良いものがなかった。そこでコーリアン®を丸く成形したらどうだろうと考えました。採用色は"聖なる白"というイメージにぴったりの"グレイシアホワイト"です」と八木教授は説明を加えて下さった。

賢明学院中学高等学校が関西学院大学の系属校となっている縁から、このモニュメント制作には関西学院大学の学生が計画段階から参加しており、コーリアン®の施工も学生たちと一丸となって試行錯誤を繰り返しながら作り上げた。

台座はコンクリート型枠を脱型後、まず円形のコーリアン®を位置合わせしながらセメント貼りにし、その上で周囲の目地を手作業で埋めていった。

「コーリアン®をタイル形状にしたので、割り付けも図面で検討し、学生たちと1900枚にものぼるコーリアン®を1枚、1枚、丁寧に貼っていきました」と八木教授は振り返る。

美観を長期的に保つため、座面に埋め込む際、コーリアン®の厚みを1㎜程度残して「浅目地仕上げ」にした。面を目地に揃える「ぞろ仕上げ」では目地割れが目立つ可能性があり、一方、目地をあまり埋めない「深目地仕上げ」では雨水が溜まって汚れやすくなる。浅目地はその中間で、目地割れが目立ちにくく、汚れを防ぐ効果がある。

このモニュメントがある空間が生徒にとって「学び舎に記憶をとどめる」きっかけとなってくれるだろう。

（K・DMC MC）

台座部分には、主にコーリアン®「グレイシアホワイト」を直径100mmの円形に切り出したものをタイルのように埋め込んだ。

使用色
グレイシアホワイト

■設計／関西学院大学 建築学部 教授 八木康夫
■コーリアン® 加工／株式会社エービーシー商会

対話を生む、新しい学び舎

関西医療学園専門学校 新館新築工事

大阪市住吉区にある創立65年を迎えた理学療法士・柔道整復師・鍼灸師など医療従事者を養成する関西医療学園専門学校は2022年4月の歯科衛生士学科開設に併せて、新校舎を建設した。天井高をあげた開放的なデザインのガラスファサード越しに見えるのは、左の壁一面の本棚、そしてテラゾー柄で統一されたベンチとテーブルが整然と並ぶ、清潔感あふれる空間だ。

その設計を担当した大阪市中央区にある株式会社イースペース設計の近藤圭氏にお話をうかがった。「ロビーフロアの設計テーマは、"ラーニングコモンズ空間"を作ることでした。大きなテーブルに生徒さんが自然と集まり、授業以外の時間にも教科書を広げながらディスカッションをしたり、皆で協力しながら学ぶことができる開放的なスペースにしたかったのです。」学びを深めるこうした学習空間は、その必要性が認識され、近年は多くの教育機関に設置されているという。

「テーブルとベンチをコーリアン®で製作するアイディアは、家具(デザインの小坂氏(株式会社チェリア)と共に提案段階から考えていました。床と同系色のコーリアン®を採用して、床・テーブル・ベンチが一体化して見えるように、というイメージでした。床のイメージとも合うテラゾー柄を探したところ、コーリアン®には"グレイッシュテラゾー"という色がありましたので、色柄の選択に迷いはありませんでした。」と近藤氏。

長さ6000㎜、幅1200㎜のテーブルを2台製作。内部にはH型鋼の門型フレームを2列に配し、十分な強度を確保した。また、内部の構造材を鋼板で覆い内側からテーブル全体を支えている。その結果、テーブルの長手方向には脚がなく、天板の接地部は両端の側板のみですっきりとしたデザインになっている。なお、この椅子のデザインは株式会社チェリアの家具デザイナーによって特別に製作されたものだ。座面の生地は、テーブルと調和するグレーの色調が選択され、ひじ掛け部分は、洗練されたスマートで美しいフォルムだ。そのひじ掛けとテーブルの高さがピッタリと合っていて、テーブル2台と椅子20脚が揃う全景を少し離れてみると、そのスリムな見付により、ロビーの空間をより広く感じることができる。

テーブルに使用されたコーリアン®はシームレスに加工されていて、継ぎ目がほとんど目立たないので、学習用のテーブルとしての機能面にも優れており、お手入れがしやすいなど、メンテナンス性の良さも期待されているそうだ。

「テーブル近くには同じ色柄で製作されたベンチも置かれていて、より一層、統一感を感じるデザインになったと思います。穏やかで、落ち着いた雰囲気を感じることができて、上手くまとまりました。」と同設計事務所の小林室長が語ってくださった。

入り口付近には、デザイナー北山孝雄氏のパブリック・アート"ミスネッシー"のアート作品が置かれており、生徒さんはもちろんのこと、道行く人の目を和ませてくれている。設計者とデザイナーの想いが詰まったこの新校舎は街と人をつなぐシンボルになってくれるはずだ。

(文・DMC MC)

使用色
グレイッシュテラゾー

■ 設計・監理／株式会社イースペース設計
■ 家具デザイン／株式会社チェリア
■ コーリアン®加工／マーブル建材株式会社

Photo: Yoshihito Imaeda

天空の美術館で、視線を集め、人の流れを導くサイン

森美術館 センターアトリウム

Mori Art Museum, Tokyo

2021年4月にリニューアルオープンした森美術館では、各種のサインをはじめ、さまざまな形でコーリアン®が用いられている。

六本木ヒルズ森タワー53階に位置する同美術館と吹抜けでつながる52階の「センターアトリウム」には、コーリアン®「デザイナーホワイト」で製作されたパーティションのようなサインが並ぶ。この大空間は、美術館のみでなく、展望台「東京シティビュー」や「森アーツセンターギャラリー」に来場した人たちも行き交う動線の要所だ。

リニューアルにあたり森美術館の改修担当チームは、来場者をスムーズに誘導する、認知されやすいサインを設置することが重要と考えた。そこで、改修を担当した森美術館の松橋龍生氏にお話をうかがった。「改修前は、サインがかなり高い所に掲示されており、来場者の視界に入りにくいという問題がありました」。天井が非常に高いことに加え、著名な建築家であるリチャード・グラックマン氏が手掛けた空間のデザイン性を損なわないよう配慮したことが、その理由だという。

松橋氏は、空間意匠との親和性を保ちながら、認知されやすいサインにするという課題を解決すべく、デザイン担当のGKグラフィックス、製作担当の美和ロックの担当者と協議を重ねた。

「華美な掲示は抑え、支柱や吊りパイプなども使用しないシンプルなサインにしたいと考えました」。そこで提案されたのが、パーティションのような形状のサインだ。最大で幅4200㎜×高さ1800㎜というサイズになるため、素材にはシームレスジョイントで大きな面を製作できるコーリアン®が選ばれた。

「空間をより明るい印象にすることも目的の一つでしたので、コーリアン®「デザイナーホワイト」を採用しました。また、センターアトリウムは照明の明るさを抑えているため、夜間は特にサインが見にくいという問題もありました。そこで、内照式サインにすることで、視認性を高めることにしました」。製作されたサインは、表面に凹凸がなく、平らな面に文字だけが光って浮かび上がるデザイン。文字の部分には透光性の高いコーリアン®「グレイシアアイス」が象嵌されている。こうした繊細な加工ができるのもコーリアン®の特長だ。

改修では、センターアトリウムに置かれた6つのサインのほか、QRコードを読み取る端末を置くカウンターやスタッフの作業用カウンターなどもコーリアン®で製作された。「いろいろな形でコーリアン®を使ってみて、素材としての上品さや、堅牢で汚れに強いといった特性をあらためて認識し、幅広い用途に使える素材だと実感しました」と松橋氏。機能や形の異なるサインやカウンターが並んでいても、素材を統一することで視覚的にシンプルになり、その結果、サインが認知されやすい環境も整えることができた。

「当館は1日5,000人を超える来場があるため、汚れに対する強さにも期待しています。その点では、すでに別のカウンターや水回りでコーリアン®を使用してきた実績がありますので、耐久性、メンテナンス性への信頼もありますね」。万が一、破損した場合も簡単に補修ができ、施工当初と同様に一枚の無垢材のように見せることができる点も、こうしたパブリックなスペースで安心して使っていただける要素の一つだ。（文：永山八重）

文字の部分には透光性の高いコーリアン®「グレイシアアイス」が象嵌されている。

使用色

デザイナーホワイト	グレイシアアイス

- 所在地／東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
- デザイン／株式会社GKグラフィックス
- 製作／美和ロック株式会社
- 協力会社／株式会社ヤマテ・サイン、株式会社ダイカン
- コーリアン®加工／マーブル建材株式会社

進化を続ける、未来のサイン

株式会社ダイカン 大阪ショールーム

株式会社ダイカンは2019年に創業55周年を迎え、同年に大阪市浪速区パークスタワーにショールームを開設した。このショールームにはLEDサインをはじめ、樹脂製、金属製、さらにデジタルコンテンツと融合したサインなど、最先端のサイン技術と製品が一堂に展示されている。このショールームの一角に、コーリアン®と同社が製作するLED発光装置を融合させた内照式のサインが2種類展示されている。

1点目は、コーリアン®「ゴールデンオニックス」の土台へ「ホワイトオニックス」をシームレスジョイントした受付テーブルだ。上部の「ホワイトオニックス」の表面に会社ロゴを切削、下部の「ゴールデンオニックス」部分には裏面から縞模様を切削することで、それぞれの光り方の違いを見ることができる。

ダイカンの仁義健・代表取締役専務にお話しをうかがった。

「シンプルに光らせる、表から彫り込んで光らせる、裏から彫って光らせるなど、それぞれの風合いや視認性に差があります。切削はCADで設計した後、NCルーターで行っていますが、コーリアン®は木工的な切削加工も可能で、切り口がとてもきめ細かく仕上がります。こういった利点があるので精密な表現も可能になり、また、完成後の品質も安定しているので、安心して使用できるデザインマテリアルだと評価しています。今後は店舗やオフィスのサイン以外にも、商業施設のテーブルなどの什器でも使えるデザイン要素の一つになると思います」

2点目の誘導サインも兼ねたベンチは、堅牢な印象のコーリアン®「カーボンアグリゲート」に光を透しやすい「グレイシアアイス」で文字と矢印を象嵌した。誘導サインとベンチの機能を併せ持つデザインはユニークで実用的だ。触れてみると、表面と文字部分に段差が一切なく、とても滑らかな仕上がりになっている。

「板と文字の間にクリアランスはありません。種明かしをすると、文字パーツをはめるスペースの側面と、文字パーツ自体の側面、この両方にテーパーをつけて、背面から正面に向かって幅が狭くなる設計になっています。実は弊社のNCルーターの刃物自体に角度を付けているのでこのような特殊な切削が可能なんです。最後に文字パーツを本体へはめ込み、表面側へ飛び出た文字パーツを削り落として平滑に仕上げています」。そう語るのは営業部国内事業グループの北上豊志氏だ。また仁義専務はこう続ける。「この加工方法は、釘を使わない箱根の寄木細工と似ています。文字パーツも本体部分と同じ素材のコーリアン®にすることで、より一体感が生まれ、サインとしての完成度が高まりました」。

今回のこの2点の展示は従来からあるサインとは趣が異なり、コーリアン®の特徴を存分に生かし、可能性をさらに広げている。同社の高度な技術力、強い探求心、真心を込めたモノづくりの精神とコーリアン®の高い加工性とのコラボレーションで、「未来のSign&Display」はますます多様化していくことだろう。（文：DMCMC）

使用色

ゴールデンオニックス	ホワイトオニックス	カーボンアグリゲート	グレイシアアイス

■所在地／大阪市浪速区難波2-10-70パークスタワー13F
TEL：06-6551-2020
■設計／株式会社ダイカン
■コーリアン®加工／マーブル建材株式会社

阿蘇の自然と つながる小空間。 トイレを安息の場所に

アミュプラザくまもと
Amu Plaza Kumamoto

Photo: Yoshihito Imaeda

商業施設、空港、駅、公園、学校、病院など、さまざまな場所の公共トイレを手がけ、革新的な提案で日本のトイレ設計を牽引してきた設計事務所ゴンドラ。クリエイティブな発想でトイレをデザインする同社にとって、コーリアン®は「なくてはならない素材」だという。

2021年4月にグランドオープンした複合商業施設「アミュプラザくまもと」のトイレでも、設計の要となる部分にコーリアン®が採用された。阿蘇の水源からインスピレーションを得たというこのトイレについて、同社代表の小林純子氏にお話をうかがった。

「アミュプラザくまもと」が入る「JR熊本駅ビル」は、空間デザインに自然を取り入れるバイオフィリック・デザインを取り入れた建物だ。1階から7階まで貫通する立体庭園に幅10m、高さ10mの滝が流れ落ちるなど、熊本の自然を象徴する「水と緑」が随所に表現されている。

「クライアントとの話し合いの中で、トイレを単独で考えるのではなく、ビル全体の空間と一体となるものとして設計したいという意向が伝わってきました。そして、まずは南阿蘇にある白川水源をぜひ見てほしいとのことでした」と小林氏。

白川水源は、阿蘇高岳の南麓から熊本市内を流れ、有明海に流れ込む一級河川・白川の水源の一つ。日本の名水百選にも選ばれている。「足を運んでみると、それはそれはきれいな、阿蘇の水を湛えた水源でした。驚くほど透明度が高く、水の湧き出る様子をつぶさに見ることができる美しい風景は、生命の根源であり私たちの命を育む『水』というものの存在を、強く意識させてくれました」。

その想いを反映し、「アミュプラザくまもと」のトイレでは、手洗いを「水の湧く場所」「人や動物の集まる水源」といったイメージで設計。各フロアとも、独立した手洗いを空間の中心にレイアウトしているが、その素材に選ばれたのがコーリアン®だった。

「トイレというのは、1、2m先に必ず壁のある囲われた空間です。ですから、意識をしなくても素材を身近に感じやすいのです。素材や色選びは、利用者がその場所に身を置いたときにどのように感じるかに直接関わり、空間を演出する大きな要素だと考えています」と小林氏。

数ある人工大理石の中でも、色数や柄幅の多いコーリアン®でなければ表現できないデザインがある一方で、水に強いという特性については、ポストフォームで事足りる場合もあるという。それでも、同社がコーリアン®を選び続ける理由をお聞きした。「汚れにくく、手入れも簡単ですから、長くきれいに保つためにはコーリアン®がよいと思います。もし、コストを優先して性能を下げれば、結局は長寿命でなくなってしまいます。また、多くの素材では端部が貼りものになりますが、無垢材であるコーリアン®は私たちが描いたとおりに加工できます。自由な発想でデザインをするためには手放せない素材です。優しくて丈夫で、これに代わるものはなかなかありません」。

快適を保ち、イマジネーションあふれるアイデアに制限をつけず表現できる素材として、進化を続けるトイレ空間にこれからも欠かせない素材であることを話してくださった。

（文・永山八重）

使用色

パールグレー	グレイシアホワイト
インペリアルイエロー	ニュートラルコンクリート

（2023年3月カタログ掲載終了色）

■所在地／熊本県熊本市西区春日3-15-26
■運営／株式会社JR熊本シティ
■トイレ設計／有限会社 設計事務所ゴンドラ
■コーリアン®加工／有限会社アミカ美装

Photo: Yoshihito Imaeda

ニューノーマル時代のオフィス空間に溶け込むコーリアン®カウンター

キリングループ本社リニューアル工事

食品大手のキリンホールディングスは、グループの各本社が入居する東京・中野のオフィスをリニューアル。2022年6月から全フロアの供用を開始した。新オフィスで来訪者をまず出迎えるのが、窓まで視線が抜ける開放的な総合エントランスだ。正面に配したコーリアン®のカウンターには、自動受付システムがすっきりと収まっている。

コロナ禍を契機として、キリンHDは国内全グループの社員約2万人を対象として「働きがい改革」を実施、リモートワークや、シェアオフィス整備などを進めた。今回のオフィスリニューアルのコンセプトは「思いや熱意がつながるSTADIUM」。働き方が多様化するなかで、オフィスの在り方を再考。社員同士がリアルにつながり、チームビルディングを達成する場、そして社員が熱意をもって企業ブランドを感じイノベーションを生み出す「共創空間」を目指した。

リニューアルにあたり完全なフリーアドレス化を導入したが、新オフィスには人が集まる仕掛けをいくつも用意した。総合エントランスに接する広々としたオープンスペースはその1つ。社員同士で打ち合わせをしたり、カーテンで仕切って懇親会をしたりすることもできる。こうした共創空間はリニューアル前に比べ約2割増えた。

総合エントランスには様々な事業領域にまたがるグループ全体の顔として、キリングループのシンボル「聖獣麒麟」を印象的にあしらった。一方、自動受付カウンターの製作においては、多くの人を出迎える場であるため、明るさや清潔感を重視し「白さ」にこだわった。そのイメージにマッチしたのはコーリアン®「ソルト」という白系の色柄だった。と説明して下さったのは、リニューアルプロジェクトに事務局として携わったキリンビジネスエキスパート・総務サポート部（当時）の山田俊和氏だ。

総合エントランスでは、緩やかにカーブする間仕切りに沿い、受付カウンターも楕円を描く。天板と側板はシームレスジョイントで継ぎ目が目立たず、美しい仕上がりになっている。また、艶出し加工を施した天板の奥には、スリットを設けてケーブルを収め、カウンター内部には各種機器類を収納した。

「カウンターは、まるで一枚板のように見えます。非常にきれいに仕上がって、全体の抜け感と相まって、期待以上の仕上がりでした。コーリアン®はメンテナンス性にも優れているので、綺麗さを保つには施設管理の面でも非常に良いですね」（山田氏）

今回のリニューアルでは、役員フロアも改装。各役員の個室を廃し、会議機能に特化させた。このエントランスの意匠には、「和」を感じさせる落ち着いたデザインを採用した。

同フロアの受付カウンターにも、天板及び側板の一部にコーリアン®が採用されている。側板には主に無節の木質仕上げ材を併用、また、天板と側板の取り合いにはアール加工が施され、シャープさと柔らかさを感じるデザインだ。そのカウンターを正面から見ると、コーリアン®と木と照明の組み合わせが壁面のデザインと調和して、上品で落ち着いた空間を創り出している。

（文・池谷和浩）

鏡面仕上げを施したコーリアン®受付カウンターのアップ。照明と共に「聖獣麒麟」が投影され、一層輝きを増している。

使用色
ソルト

ホワイトジャスミン

■設計・施工／株式会社オカムラ
■コーリアン®加工／株式会社ライト

直径7mの円盤が映える企業エントランス

エクシオグループ本社ビル エントランス

Photo: Kenta Hasegawa

通信設備工事大手で東証プライム上場のエクシオグループは、2021年秋、渋谷にある本社ビルのエントランスを一新した。最大のポイントは、エントランス空間のほぼ中央に配置した、真っ白な円盤だ。前面道路の歩道からガラス越しに見ることもでき、外見からも分かる建物の印象的なワンポイントとなっている。

円盤は、一部を建物の円柱に貫かれ、少し傾いた状態で床から浮いているように見える。直径は約7m、平面図上ではほぼ真円だ。エントランス内部では、上部の天井側で照明器具をグリッド配置し、フラットな平面を点描したのと相まって、幾何学的なデザインを構成している。

この円盤を実現したのが、コーリアン®と、そのシームレスジョイント技術だ。コーリアン®を10ピースの部材に分割して搬入し、現場で一体化させて仕上げた。

改修プロジェクトの基本設計および実施設計監修を手がけたMMAAA一級建築士事務所の本橋良介氏は、このデザインについて、エントランスをより広く使うため「印象的な意匠でシンプルにまとめる」意図があると語る。

円盤には写真撮影時の「レフ板」に似た機能も持たせた。天井から吊った照明の光を円盤に反射させ、間接光で空間を照らす狙いだ。空間全体の光のムラを無くし、外光の変化に左右されにくくなり、約200㎡のエントランス空間がより広く感じられるようになった。

円盤の仕上げについて、本橋氏は「こういう印象を左右する意匠に目地があると、視覚的には『普通』で、驚きがありません。幾何学的なデザインの特徴を研ぎ澄ますため、シームレスにはこだわった」と強調する。一般的なボード建材と左官仕上げの組み合わせも候補に挙がったが、クラック発生の懸念があることから、盤面の材料自体をコーリアン®とすることに決めた。

採用したのは複数のホワイトカラーの中でもイエロー寄りの「カメオホワイト」だ。「これまで手がけてきた住宅でもコーリアン®でキッチンを製作したことがあった。設計に参加した中国におけるプロジェクトで壁面外装に使ったこともあり、そんな経験から、特にこの用途にはこの色が合うと感じた」（本橋氏）という。現場での接着・研磨施工で実現した最大幅7mの〝無垢板〟は、そんな実体験から生まれた発想だった。

なお円盤は単なる意匠デザインの要素のみではない。企業のエントランス空間は来訪者のウェイティングルームでもあり、軽い打ち合わせなどを行う場合もある。そこでこの円盤は十分な載荷性能を確保することで、腰掛けたり、打ち合わせデスク代わりに使ったりする機能を付加している。

このため円盤の外周は厚さ12㎜のコーリアン®を2枚重ね張りしてより強度を上げ、架台からはね出しを設けた。はね出しがあることで遠目には円盤全体が床から浮いているように見え、打ち合わせデスクとしても使いやすくなるというわけだ。

円盤の下部構造は500㎜ピッチで組んだ鉄骨製の架台で、上面に厚さ12㎜の構造用合板を敷いて傾いた平面を構築し、その上にさらに厚さ12㎜のコーリアン®を接着して仕上げている。円盤全体が「照明や天井側のメンテナンスなどで人間が乗っても、ぐらつかない強度がある」（本橋氏）という。建築設計者ならではの意匠デザインだ。

（文・池谷和浩）

使用色
カメオホワイト

■デザイン／MMAAA 本橋良介＋三木達郎

Photo: Yoshihito Imaeda

お客様をやさしく迎え入れる受付カウンター

半円状の受付カウンターが来訪者を出迎える。受け付けの人員2人が収まってちょうど良いサイズのこのカウンターは、空間全体の光を反射し、特徴的な透明感をまとう。

このカウンターの表層はすべて、シームレスジョイントしたコーリアン®。カウンターは平面図で見るとほぼ半円で、幅は約4mだ。床からの立ち上がり、カウンター内部の机との取り合いなどにそれぞれ角度を設け、また各部にアール加工を施したことで、来訪者に柔和な印象を与えている。

また、カウンターのコーリアン®部分と床との間には大きめのクリアランスを設け、床も含めて間接照明を施すことによって、カウンター全体の浮遊感を演出した。

このカウンターを含むエントランスのインテリアデザインを担当したのは、ワークプレイスコンサルティング、ワークプレイスデザイン、プロジェクトマネジメントなどを手がけるミダス。プロジェクトの統括設計者である岩瀬雅路氏は、このデザインコンセプトについて次のように語る。

「目指したのは、クライアントのブランドイメージを端的に現し、ミニマル（最小限）に要素をそぎ落とした、シンプルなデザインです。同じ形状をつくるにしても、目地の有無で印象は大きく変わる。今回は特に継ぎ目のないソリッドさが欲しかった」。

カウンターのデザインは社内デザイナーが担当。クライアントへの最終プレゼンに向けGOサインを出した岩瀬氏は、「狙い通りのデザイン。正面のすぼまりをどの程度傾けるかなどは個人のセンスが出るところですが、よくまとまっていると思う」。デザインの前提として「継ぎ目が出ないといえばコーリアン®のシームレスジョイント。着手時点から材料はすでにコーリアン®で決まっていました」と振り返る。

半円状のカウンターに合わせ、真上に当たる天井面も円をモチーフとしたデザインとし、照明器具を放射状に配置したことも、カウンターの存在感をより高めている。エントランス空間全体では色調をホワイトで統一、空間全体を明るく仕上げた。「空間の照度、カウンター下端の間接照明も含め、『光の演出』もこのデザインのテーマ」だった。

コロナ禍により、企業オフィスは激変の真っ最中だ。在宅勤務などリモートワーク化が進み、働き方が変化、週休3日制を採用する企業も出ている。企業はオフィスの存在価値を再定義し、オフィス空間全体を縮小するケースも増えてきた。

そうした中、「各企業がオフィス機能の何を残して、何を減らすべきか、試行錯誤が続いている」と岩瀬氏は指摘する。出社率の低下に伴いオフィス面積を減らすにせよ、オフィス機能の再定義をベースに改修や移転のニーズは高まっているという。

オフィス機能の重要な1つには、社外の関係者を迎え入れ、打ち合わせや会議でコミュニケーションを図ることがある。エントランスはそうした来訪者に対し、"企業の顔"となるだけに、オフィス見直しにおいて意匠デザインの腕の見せ所となっている。岩瀬氏は「コーリアン®は加工が自在で、造形の面白さやダイナミックな意匠性を表現できます。耐久性が高く、メンテナンスも容易で、環境にやさしい素材でもあります。受付カウンターの意匠など、今後も活躍の場があるのではないでしょうか」と語ってくださった。

（文・池谷和浩）

使用色
グレイシアホワイト

■設計・監理／株式会社ミダス
■工事統括／株式会社カミヒサ
■造作家具工事／
株式会社ショッププランナー国際
■コーリアン®加工／株式会社エイペクス

Photo: Yoshihito Imaeda

生き生きと緑に彩られ 力強く佇むキッチン

クチーナ 大阪ショールーム

大地をイメージしたワークトップ

クチーナ 大阪ショールームに展示されている「ボタニカル」をテーマにしたキッチンは、自然の中にいるような心地よいエネルギーに満ちあふれ、その場で生まれる料理やコミュニケーションにもポジティブな影響を与えてくれそうな雰囲気を持っている。

同社では従来、設計担当が新しい提案を盛り込んだキッチンをデザインし、ショールームに展示しているが、このキッチンは、営業・設計・ショールームの担当各一名がチームを組み、それぞれのスキルを持ち寄って企画から製作まで共同で作業を進めるという新しい試みによってつくられたという。そこで、製作チームの奥村優貴氏（営業担当）、土佐道子氏（設計担当）、辻井晴子氏（ショールーム担当）にお話を伺った。

「グリーンと調和するキッチンにしたいとプランを考えました。扉材には自然に生えた木の幹や枝を想起するような柄を、そしてワークトップには大地の雄大さを感じるコーリアン®“ラバロックⅡ”を採用しました。また、ワークトップの端に円形の開口をいくつか設けて植物を飾り、その延長にオアシスをイメージした手洗いボウルを配置しています」と奥村氏。

さらに、バックキャビネットのバーコーナーには、植物の生命感をイメージさせるコーリアン®「ジェイドオニックス」が採用され、背面からの照明効果と相まって、キッチン空間全体でグリーンとの調和というテーマを表現している。

奥村氏の作成したユニークな基本プランに添って設計を進めたのが土佐氏だ。「展示スペースとして用意されていたのはビルの構造柱が大きくせり出した場所だったため、変形のプランになりました。奥行きの浅いスペースを生かす手洗いカウンターを二段にすることで、キッチンのワークトップとダイニングテーブルで構成される二つの水平ラインをさらに延長することができるのではないかと考えました」。

手洗いカウンターを含めるとワークトップの長さは4120㎜。さらにその先には、同じく「ラバロックⅡ」をトップに採用したダイニングテーブルが連なっている。

「4m超という総寸法や変形のデザイン、アールの加工を用いることなどを考えると、ワークトップの素材はコーリアン®でなければ実現が難しい条件でした。このキッチンに限らず、切ったり、つないだり、どんな形状にも加工できて、何かあったときにもメンテナンスしやすいという点でも、コーリアン®は安心感のある素材です。現場で加工できるところも強みで、間口や開口部の寸法調整をそれほどシビアに考えなくてもよいというのは助かっています」と奥村氏。

濃色の持つイメージを刷新

今回、濃色の「ラバロックⅡ」を採用したことで、新たな知見を得ることも出来たと、辻井氏。「以前から、ワークトップを濃色にしたいというご要望が多かったのですが、私どもとしてはコーリアン®の濃色は傷や手垢が目立ちやすいという印象がありました。ところが、「ラバロックⅡ」のワークトップを2年ほど展示してみて、手垢や傷は気にならず、継ぎ目も目立ちにくいことが分かりましたので、自信を持ってお勧めすることができるようになりました。色合いも好評で、主張しすぎず、どこかレトロな雰囲気が漂って、落ち着きのあるところもよいのではないでしょうか。和のインテリアにも馴染みそうですね」。

ご紹介したキッチンは、現在、写真の場所から移動して展示されているが、床や壁など周りの素材が落ち着いた雰囲気に変わっても、力強い生命感はそのままに、モダンな空間にも調和するデザインであることを証明している。

（文：永山八重）

使用色
ラバロックⅡ

ジェイドオニックス

■所在地／大阪市西区南堀江1-7-1
TEL：06-6533-3461
■デザイン・設計／株式会社モーリショップ大阪支店

宮崎本社ショールーム

Photo: Yoshihito Imaeda

すべてが自由なオーダーで一生ものになるキッチンを

LIBRE（リブレ）

九州に拠点を置くオーダーメイドキッチン専門メーカー「LIBRE（リブレ）」。創業38年の同社は、自社工場で製造に携わる職人の高い技術力を背景に、使う人のこだわりに丁寧に応える自由度の高いオーダーメイドキッチンを提供している。宮崎と福岡にある同社ショールームでは、オーダーする人がイメージをしやすいようにと、いくつかのキッチンを展示。その中から、ワークトップにコーリアン®の注目カラーを使用している2つのキッチンをご紹介する。

宮崎本社ショールームに展示されているキッチンの1台には、コーリアン®2021年新色のSAZAREシリーズ「ホワイトテラゾー」が採用されている。大小のクランチをランダムに散りばめたテラゾー模様は、モダンスタイルをはじめ、ヴィンテージスタイルやジャパネスクスタイルなどにも採り入れやすく、インテリアデザインに採用されることが多くなった人気の柄だ。

キッチン本体はシンプルなフォルムに天然木ウォールナットの木目が映えるアイランド型。ワークトップは小口に100㎜の厚みを持たせた重厚なデザインながら、「ホワイトテラゾー」の明るい色合いで軽やかさも両立。どんな空間にも溶け込む、心地よいモダンな雰囲気を生み出している。

一方、福岡ショールームでは、ウォールナットの木目を横方向に流したペニンシュラ型のキッチンに、デュポン™プライベートコレクション「ヘーゼルナッツⅡ」を採用。濃淡のはっきりした大きな流れの中に、大小のクランチが浮き沈みする個性的な柄は、ウォールナットの木目とも相性がよく、力強い存在感のあるキッチンに仕上がっている。

どちらのキッチンにも採用されているのが、ワークトップからシンク側面までを同色のコーリアン®で継ぎ目なく作り、底面のみステンレスに切り替えた「ハイブリッドシンク」だ。リビングやダイニングから見ると、シンクが目立ちにくい上、底面が振動に強いステンレスであるためディスポーザーの取り付けも可能。デザインと機能性を両立。限りなく制約を取り払い、自由なキッチンづくりを追求する同社らしい新提案だ。

「ハイブリッドシンク」が誕生した背景には、同社でキッチンをオーダーする方の半数以上がワークトップにコーリアン®を採用しているという実績がある。コーリアン®が選ばれる理由について、福岡ショールームの大村直子氏にお話をうかがった。

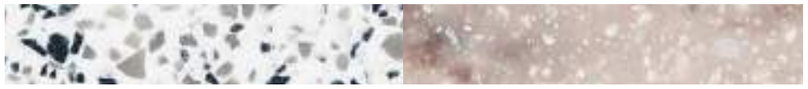
福岡ショールーム

「細かな部分までこだわり抜いたキッチンはお客様にとって宝物のような存在で、メンテナンスをしながら長く使っていただいています。ですから、ワークトップは傷や汚れに強く、耐久性に優れた素材であることはとても重要です。さらに、10～15年程経過して、機器類を最新のものに交換することになった際、機器を収める開口部を変更しなくてはいけないことがあります。そんなときでも、加工性が高く、現場で作業をすることができるコーリアン®を私どもとしても積極的にお勧めしています」。

長く使うことの価値が見直される時代、キッチンも一生ものとして選ぶことが、やがて当たり前に。長寿命であること、メンテナンス性が高く、リフォームにも対応できる素材がますます求められるだろう。

（文・永山八重）

使用色
ホワイトテラゾー



ヘーゼルナッツⅡ

■所在地／宮崎本社・工場・ショールーム
宮崎県北諸県郡三股町蓼池3628-3
TEL：0986-52-6850

福岡ショールーム
福岡県福岡市中央区薬院1-8-5-1F
TEL：092-713-7765

■デザイン・製造・販売／リブレ株式会社

キッチンをもっと居心地のよい場所に

RILNO東京ショールーム

Photo: Yoshihito Imaeda

キッチンを住空間の一部として提案

大分に本社を置く創業100年のオーダーメイドキッチン・家具メーカーの田中工藝。同社の手がけるキッチンブランド「RILNO（リルノ）」の東京ショールームが2022年5月に移転。製品を紹介するだけでなく、キッチンでの過ごし方や住空間とのトータルコーディネートまで体感できるライフスタイル提案型のショールームとなった。

バイクの修理工場だった半地下のスペースを大規模改装したショールームは、居心地のよさがテーマ。

「移転にあたり、足を運んでくださった方にしっかりと提案ができる場所にしたいと考えました」と話してくださったのは、同社専務取締役の田中智也氏。

「キッチンは住まいの一部である」との考えから、ショールーム内はまるで住居のようなしつらえに。ダイニングセットや収納家具なども配置され、天井高は2400㎜とマンションの標準的な高さに合わせて、暮らしの空間をリアルに再現している。

「住空間の中に落とし込むことでスケール感や使い勝手が伝わり、我が家ならこんな感じかなと想像しやすくなると思います。展示しているキッチンは実際に使うことができますので、料理や後片付けをしてみて、デザインだけでなく、例えばワークトップの素材は拭き掃除をすると、こんな感じになるんだ、というところまでぜひ体感していただきたいです」

時代に寄り添う多機能キッチン

このショールームでは、キッチン1台と洗面化粧台1台、そして来客用のトイレのカウンターにコーリアン®が採用されている。

展示のメインとなっているのは、料理用スペースとしてはもちろんのこと、さまざまな用途に対応する多機能キッチン。料理以外の家事やデスクワーク、子どもたちの勉強、少人数での食事も快適にできるよう多彩な工夫が盛り込まれている。

「お客様との打ち合わせでも、キッチンでいろいろなことができるようにしたいというご要望は多いですね。家の中でもご家族みなさんが長い時間を過ごす場所ですから、デザインだけでなく使い勝手も含めて、いかに居心地のよいキッチンにするかということを、一番大切に考えてプランをご提案しています」。

キッチンに求められる役割が変化しつつある中、素材選びにも新しい視点が加わっている。たとえば、ワークスペースとしてパソコンを使うならマウスが使いやすい素材かどうか、テーブルを兼ねるなら食器との相性も大事なポイントだ。

「その点、コーリアン®は使い勝手がよいですね。しっとりとやわらかい感触は、食器を置いたときの音もやさしく、食事の場にも向いています。みなさん実物に触れてみて、これいいね、と言っていただいています。どんなシーンにも対応する素材ではないでしょうか。今回、多機能キッチンをプランする上で、コーリアン®以外の素材は考えられませんでした」。

現在、RILNO東京ショールームを訪れる人の約8割が、マンションのリノベーションでキッチンを新しくする方だという。キッチンにこだわりがありながら、搬入経路に制限があったりと、スペースに限りがあるケースも多い。「現場で継げるという点でもコーリアン®は使いやすい素材です。留め継ぎなどの仕上げもきれいにできますし、小口を見せることもできるので、どんなデザインにも対応できます。モダンなだけでなく、温かみのある雰囲気もRILNOのスタイルに合っていると思います」と田中氏。

多様な可能性を感じさせるアイデアと心地よいデザインで、新しい時代に寄り添うキッチンを生み出している同社。居心地のよいキッチンには、作り手の温かい想いが溢れていた。

（文・永山八重）

使用色

クラムシェルⅡ　ウェザードアグリゲート

アッシュコンクリート

（2023年3月カタログ掲載終了色）

■ 所在地／東京都大田区北馬込1-17-6 パークティアラ北馬込B1
TEL：03-6300-4437
■ デザイン・施工／株式会社田中工藝

ダイナミックなのに繊細、曲線が創り出す美しさ

O氏邸

ドアを開いた瞬間、真っ先に目に飛び込んでくるのは広い空間の中に美しい曲線を描くモダンで重厚感のあるキッチン、そして鮮やかなパープルチェアとスタイリッシュな照明だ。思わず息を呑むほど贅沢な空間である。

施主であるO氏から設計依頼を受けた神戸今井商店の今井智仁氏はコーリアン®を知り尽くし、数多くのキッチンを手掛けてきた家具デザイナーだ。今回のデザインについてお話をうかがった。

「日常使いに必要な機能面はもちろんのこと、ホームパーティーを行ったり、また、キッチン・リビングを見学に来る方も想定されていたので、それら全ての条件を備えたキッチンを一つの造形美として演出したいと考えました」。

訪れる人の誰もが羨む景観が目の前に広がる窓に向かって設置されたキッチンは、長さ約2800㎜、幅は約780㎜で、S字型に窓方向に滑らかにカーブを描いている。ワークトップの一部にはカーブに沿う形で、ダークな色調のカウンターテーブルが設置された。ワークトップと側板には、ホワイト系の中でも上品な柄が入ったコーリアン®「シラスホワイト」が選ばれた。工場で分割した状態で成型してから搬入、現場でシームレスジョイントを行った。使用したコーリアン®は10枚以上になるが、完成後はどこで分割されていたか全くわからない仕上がりになった。また、側板は床に向かってテーパー状に加工されており、カウンターテーブルの下に埋め込まれた間接照明が柔らかく、そして優しく光る。時間帯によって、違う顔を見せるキッチンはどの角度から見ても美しく見えるように、隅々まで計算しつくされている。

キッチン周りには、ワインセラーや食器収納用のキャビネットを壁一面に設置した。その扉の表面には、周辺の地図を模したオリジナリティーあふれるデザインが施された。広々としたカウンターの上に飾られている大きなグリーンの間から落ちる照明の光と、洗練されたキャビネットが調和し、エレガントな空間となっている。完成後の使用感について施主のO氏はこう語る。

「L字型のアイランドキッチンはよく見かけるので、提案のあったS字型のデザインに決めましたが、図面上で見ていた段階では動線を予想できませんでしたね。でも、完成してみると立ち位置を殆ど変えずに調理出来るなど、とても効率的で使いやすくて大変満足しています。シンクは一般的な四角ではなく個性的なデザインですが、おしゃれに見えるだけでなく、深さが十分にあるので実用面にも優れています。また、ホームパーティー用にキッチン天板を部分的に外して使用するワインクーラーが備えられていたり、簡単に食事を取れるように設置されたカウンターテーブルもとても便利で、独特なデザインでありながら、かつ合理的なキッチンが出来上がりました。」

コーリアン®をよくご存知のO氏は、加工性が良く、耐久性やメンテナンス性にも優れるコーリアン®の特性を最大限に生かし、クリエイティブな意匠を実現したキッチンになったと、語ってくださった。

リビングの一角を占めるコーリアン®のワークトップには、春になると桜を飾るなど四季折々の変化に合わせてインテリアとして楽しんでいるという。使うだけでなく、愛でることでも日々の暮らしを豊かにしてくれるキッチン。これからどんな新しい表情を見せてくれるのだろうか。（K・DMCMC）

使用色
シラスホワイト

※2022年よりシラスホワイトⅡへ変更になりました。施工事例に使われたシラスホワイトとシラスホワイトⅡは色や柄の表情が異なります。

■キッチン デザイン・設計・施工／神戸 今井商店 今井智仁
■コーリアン®加工／マーブル建材株式会社

上質な空間に溶け込む もてなしのキッチン

東京都Ｓ氏邸

Photo: Tomoko Kudoh

自然素材と調和するテクスチャー

一人ひとりの使いやすさにこだわったオーダーキッチンを提案する「ＥＫＲＥＡ（エクレア）」。丁寧な打ち合わせをもとに、使う人の暮らしに寄り添うデザインや機能をプランニングし、家事をスムーズにするきめ細かい工夫をこらしたキッチンを製作している。もともと注文住宅やリフォームを手がける工務店のオーダーキッチン部門としてスタートしたブランドであるため、住空間とのトータルコーディネートも得意としている。

ご紹介する東京都のＳ氏邸は、マンションをフルリノベーションして2ＬＤＫの間取りを開放的なワンルームの住まいに変更。広々とした空間の主役は、料理教室を開いたり、シェフを呼んで友人との会食を楽しむこともできるようにと設計された「人が集うキッチン」だ。食や食器にもこだわりをお持ちのＳさんと打ち合わせを重ね、数多く所有されている作家ものの食器がすっきり収まる収納や特注のシンクなど、実用性を備えながら住空間に溶け込むデザイン性も両立。オーク材やラタン、麻縄といった表情豊かな自然素材を使った家具のようなキッチンのワークトップには、グレーのベースにゆらめく白い柄が印象的な「カームグレイッシュブルー」が選ばれた。

「空間全体のトーンに合わせてワークトップはグレー系でご提案しました。サンプルをお見せすると、お客様も即決でした。ソリッドなグレーカラーは単調になりすぎてしまうこともありますが、“カームグレイッシュブルー”は白い柄がアクセントになっていて、自然な雰囲気がありながらキッチンの意匠性も高めてくれる柄だと思いました。かといって、くどすぎず、空間にもすっきりと調和しています」と話してくださったのは、エクレアオーダーキッチンの塩田氏。

石や陶器を思わせるテクスチャーを持つ「カームグレイッシュブルー」は、室内建具や造作家具にふんだんに使われているナラ材、壁面に使用した木毛セメント板とも相性がよく、ＲＣの躯体が剥き出しになった天井や大判タイルを敷いた床面に溶け込むように馴染んでいる。

「今回は、自然素材との組み合わせでしたが、シンプルモダンなデザインにも、和風な空間にも、どんなテイストにも合わせやすいのではないかと思います」。

さまざまな制約を乗り越える加工性

Ｓ氏邸のキッチンにコーリアン®が採用された理由は、個性的な色柄に加えて、加工性の高さが決め手だった。

「アイランドキッチンのサイズは幅２８５０×奥行き１０００㎜、バックカウンターは３３２０㎜の長さがあります。Ｓ様のお宅はマンションの高層階。これだけ大きなワークトップを一枚板で作ろうとすると、マンションの場合はどうしても搬入経路の確保が問題になります。キッチンの中央にパイプスペースが通っていることもあって、今回は特に現場で継いでシームレスな仕上がりにできるコーリアン®が最適だと考えました」と塩田氏。見た目だけでなく、ジョイントがないことで、お手入れがしやすくなるところもＳさんが気に入ってくださったとのこと。

「マンションのキッチンをプランニングするときは、まず、カウンターが搬入できるのかということを考えます。その点、コーリアン®は分割しても現場で自由につなげるので、安心感がありますね。サイズが大きいときだけでなく、Ｌ字型やコの字型のキッチンでワークトップを一体感のある仕上げにしたいときもコーリアン®をご提案しています。マンションやリフォームに限らず、加工性がよいという特性は、キッチンをプランニングする上で、さまざまな制約を取り払ってくれるので、とても大切な点です」と塩田氏。

規格にとらわれず、使う人の想いを一つひとつ丁寧にかなえるオーダーキッチンを手がける作り手だからこその視点で、コーリアン®を語ってくださった。

（文・永山八重）

使用色
カームグレイッシュブルー

■所在地／エクレアキッチンショールーム
東京都文京区大塚3-1-10
ラ・ネージュ小石川1F
TEL：03-5940-4450
■キッチン製作／エクレアオーダーキッチン
■設計・デザイン／アオイデザイン

New Colors

COTETOTE シリーズ

土に還る。
泥や土に触れるとき、大地に抱かれるとき、
人は安らぎ、清々しいエネルギーに満たされます。
茶室の土壁、漆喰の塀、焼き物の茶碗、
土から生まれたものは、いつも身近で
人の営みの中にありました。
私たちの技術は今、あらゆる場所に到達し、
宇宙へ、深海へ、そして未知なる仮想の世界へ
身体や心を連れていくことができるようになりました。
でも、心躍る旅の途中、ふとした瞬間に戻りたくなるのは大地。
人の手による仕事を映す土に触れるとき、
日常を取り戻すことができるから。
大地に、自然につながっている安心感を。
2022年、コーリアン®富山工場から新シリーズが誕生しました。

SICCUI BEIGE

シックイベージュ（JNX）

家や城を守る建材でありながら、繊細な装飾やアートのような表現もできる。
光の色や当たり方で味わい深く表情を変えて
空間に寄り添い、風景に溶け込む漆喰のように。
主役にも、名脇役にもなれる自由さを備えたベージュカラーです。

全体イメージ（500×1500mm／縮尺 約1/10）

RIKYU GRAY

リキュウグレー（JHX）

生涯を通じて自己の美意識を貫き通した千利休。
江戸時代、天下の侘び茶人の好みになぞらえて、いくつもの色が生まれました。
粋好みの江戸の人々に愛されたクールで繊細な色合いのグレーは
現代の建築においてもひときわモダンな存在感を放ちます。

全体イメージ（500×1500mm／縮尺 約1/10）

SUMI GRAY

スミグレー（JCX）

「墨に五色あり」といわれる奥深さ。
濃、焦、重、淡、清と名付けられた5つの階調が織りなす色合いは
見る人のイマジネーションを縦横無尽に刺激し、
モノトーンの世界に豊かな色彩が潜んでいるかのように感じさせてくれます。

全体イメージ（500×1500mm／縮尺 約1/10）

書：熊坂 尚史　PHOTO：YOSHIHITO IMAEDA

CORIAN®
DESIGN

デュポン・MCC株式会社 〒100-6111 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

コーリアン®について詳しい情報はこちら
https://dupont-mcc.co.jp/

公式サイト　お問い合わせ

Instagram Japan
@dupont_mcc.official

インスタグラム

©デュポン・MCC株式会社 著作権：いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2023 DuPont-MCC Co.,Ltd. All rights reserved.
Corian®、コーリアン®、Corian® Designロゴ、Make Your Space™、DuPont™ および ™、℠、又は ® 表示のあるすべての標章は、別段の記載がない限り、DuPont de Nemours, Inc. の関連会社の商標又は登録商標です。